

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「児童生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばす指導や支援の在り方を追求し、「自ら考え行動する力」「変化に対応できる力」「コミュニケーション力」をはぐくみ、それらの力が生活の場で発揮できる方策について研究する学校」をめざす。

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を進めることを念頭に置き、平成 27 年 4 月に新しく開校した知的障がい教育を行う支援学校として次の 4 つの視点を持って学校の機能充実を進めていく。

- ① 交流及び共同学習を推進する ②地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮する ③キャリア教育の充実を図る ④関係諸機関や地域社会との連携を強める

2 中期的目標

1. キャリア形成をめざした学習内容の充実を図る。

(1) 小学部、中学部、高等部各学部の教育内容の充実を図り、キャリア形成の視点で指導の一貫性を高める。

(2) 高等部において、卒業後の豊かな生活につながる教育の充実を図る。

生徒の就労意欲向上を図り、仕事を通じた地域連携・社会に出て役立つ技能の習得をめざす職業コースを設置する。

(3) 児童生徒が日常の学校生活の中で学習に親しみ、安全のためのルールを意識できる環境整備を行う。

2. 特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。

(1) 本校教職員と通学区域にある校園の教職員が特別支援教育の専門性を向上させることができる研修を実施する。

(2) 通学区域の校園に向けた地域支援に関する積極的情報発信を行う。

3. 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を志向した交流及び共同学習の充実を図る。

(1) 児童生徒の居住地の学校との交流及び共同学習（居住地校交流）を進める。

(2) 近隣校との交流及び共同学習や地域住民との交流活動を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・保護者（34 項目）、教職員（32 項目）、生徒（20 項目）のアンケートを実施した。保護者分は、昨年度実施の 27 項目は今年度との比較ができるようにした。</p> <p>・回答項目は、1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまり宛はまあない 4：まったくあてはまらない 5：わからないとした。（5は今年度から追加した）</p> <p>・回答率は、保護者 65%、教職員 43%、生徒（中高）70%</p> <p>【結果と分析】</p> <p>・保護者の肯定的回答は、9割代が 3 項目、8割代が 19 項目、7割代が 10 項目、6割代以下が 2 項目</p> <p>・昨年度との比較では、ほとんどの項目で肯定的評価が同等であった。昨年度と比較できる 27 項目すべてで積極的評価である「1：よくあてはまる」の割合が向上した。</p> <p>・肯定的回答率が低い 2 項目について。「ICT 機器活用等児童生徒の興味関心に基づいて授業を行っている」は 66.4%（昨年度 91%）。わからないが 18.2%と多い。教職員の肯定的評価の 83.7%との差が大きいことを反省し、授業改善並びに保護者への情報提供につとめる必要がある。「学校 HP を見るか」については肯定評価が 47.4 と低迷しており、学校ホームページについては、内容の充実を図るとともに、関心を持っていただく努力必要である。</p> <p>・「交流及び共同学習を進めているか」については、肯定的回答は昨年度とほぼ同じ 85.4%だが、1：よくあてはまるは昨年度の 26%から 53.3%と大幅に向上。</p> <p>・保護者と教職員の評価に開きが見られたのは次の 1 点。</p> <p>① 学校の施設・設備等の教育環境は整っているか」肯定的回答が保護者は 73.8%に対し、教職員は 25.6%。保護者の評価は、不備を補うべく教職員が工夫・努力している点を含めた評価ではないかと分析している。</p>	<p>第 1 回 平成 28 年 6 月 29 日開催</p> <p>1. ・知的障がいの生徒と発達障がいの生徒でははぐくむキャリアのイメージが大きく違ってくるので、個に応じた目標設定が必要である。</p> <p>・利益を生み出す人材として障がい者雇用を行う企業も出てきており、そのような企業ではリーダー育成も取り組まれている。</p> <p>・企業が求める人材に生徒を当てはめるのではなく、企業の環境が生徒が働きやすいものとなるよう、学校が企業に働きかけるという視点も大事である。</p> <p>・教員が学校と進路先のつなぎ役となれるよう、福祉や企業の実態をよく知り、生徒のできることを進路先に伝えられることが大事である。</p> <p>2. ・充実した自主研修が行える時間の余裕が必要。</p> <p>・授業研究が形式的なものにならないよう工夫を。</p> <p>・就学先を考える際に、特別支援学校の様子をもっと知りたいという声を聞く。</p> <p>・児童生徒が地域の人とあいさつする機会がふえてきている。</p> <p>・支援学校に地域の立場で何ができるのかわからないので、学校からの発信がほしい。</p> <p>第 2 回 平成 28 年 11 月 17 日開催</p> <p>1. ・文化祭（東淀川まつり）予行を参観し、児童生徒の活動と教員の指導の様子を見ることができた。</p> <p>・学校での取り組みが外部からも見えるような工夫が必要。</p> <p>2. ・学校と福祉の現場では活動目的の捉え方に違いがある。</p> <p>・支援学校の実情がわかるよう情報発信に取り組むことは進路選択の際にも役立つので良いことだ。</p> <p>3. ・交流及び共同学習の様子を画像で見ることができた。学校からの更なる情報発信が望まれる。</p> <p>・地域や近隣校と共に地域防災や非常時の対応について考えていってほしい。</p> <p>第 3 回 平成 29 年 2 月 17 日開催</p> <p>1. 作品展では作品はしっかり制作されているが、教育目標にどうつながるのか、作品を作る力がどのように形成され生かされるのかが分かる展示となるよう工夫が望まれる。</p> <p>マトリックス運用には合理的配慮の視点が必要だが、指導者間のチェックがうまくいくかがポイントではないか。</p> <p>2. 生徒の利益にどうつながるかという視点で学校の取組等を積極的に発信すべき。学校の見学はオープンになっているか。</p> <p>3. 交流の目標が学校間、保護者と学校で確認されているか。</p> <p>卒業後の進路先となる施設との交流も検討されたい。</p>

--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. キャリア形成を目指した学習内容の充実	<p>(1) 小中高で一貫したキャリア形成を目指す教育課程作成に着手 ア. 推進委員会で課題整理する。 イ. はぐくむ力を整理する。</p> <p>(2) 高等部で選択授業、職業コースを実施する ア. 選択授業開始 イ. 職業コースの試行</p> <p>(3) 学習や安全ルール獲得を促進する環境整備。 ア. 校内掲示検討PJを発足し、計画立案 イ. 児童生徒会活動で校内安全推進に取り組む。</p>	<p>(1) ア. 教育課程推進委員会でキャリア形成を重点とし一貫性のある教育課程の編成に向けた検討を進める。 イ. 「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成について、学校全体の目標設定を行う。(キャリアステージマトリックス作成)</p> <p>(2) ア. 高等部2年で生徒の良いところを伸ばす「選択授業」を開始する。 イ. 職業コース開始に向け、企業の協力を得て、実習を試行する。</p> <p>(3) ア. ユニバーサルデザインを意識した校内掲示など、知的障がいのある児童生徒が学習意欲を持ったり、安全ルールを意識しやすい環境整備のアイデアを蒐集する。 イ. 校内安全推進等に児童生徒が参画できるようにする。</p>	<p>(1) ア. 教育課程検討方針と平成30年度までのスケジュールを2学期中に作成する。 イ. マトリックスを年度内に完成する。</p> <p>(2) ア. 選択授業への生徒・保護者の肯定的評価7割以上を目指す。 イ. 本格実施に向けた検討を行い、高1CDグループ15名を対象に実習を試行する。</p> <p>(3) ア. 4月にPJを発足し、1学期中に計画立案し、平成30年度の成果発表に向け着手。 イ. 1学期中に児童生徒会での取組を開始。2学期以降、毎月の全校集会で活動。</p>	<p>(1) ア. 全校教育課程推進委員会で協議を進めて、時間割、授業時数を次年度から改正する。(○)</p> <p>イ. 小中高で育てたい力を学校全体で確認しまとめたキャリアステージマトリックスを完成(3学期中に策定完了予定)。(○)</p> <p>(2) ア. 学習グループの妥当性は9割以上、社会適応力集団参加力育成への評価も9割以上が肯定的評価。生徒の主体性を重視した学習として、コース制に引き継いでいく。(○)</p> <p>イ. コース制(職業デザイン、生活デザイン)実施に向け検討し、次年度実施。新2年は水曜日の午前をコースの授業自転車整備、農園芸、窯業等多彩な作業種目を設定 近隣校、地域との連携も視野に入れた調整を行っている。(◎)</p> <p>(3) ア. 3学期で教室掲示版等を設置完了(予定)。児童生徒の学習につながる校内デザインの企画検討が進み全体構想骨子ができた。(○)</p> <p>イ. 校内安全ポスターの校内掲示実施。全校集会のほか校内放送等で生徒会、委員会活動の活動場が増え、生徒主体の活動が充実した。(○)</p>
2. センターの機能の充実	<p>(1) 地域の特別支援教育の専門性向上を指向した公開研修を企画・実施</p> <p>(2) 通学区域の校園からのニーズに応じた地域支援を実施</p>	<p>(1) ア. 本校教職員と通学区域にある校園の教職員が特別支援教育の専門性を向上させることができる研修を企画・実施する。「今日的課題(合理的配慮の実践等)」「福祉や労働との連携」「医療関係者、作業療法士、臨床心理士等の専門家との連携」をテーマとした研修を企画・実施する。 イ. 自主研修の活性化を図る。</p> <p>(2) ア. 「支援相談パンフレット」を作成し、本校の通学区域校園への本校が行う地域支援についての周知を行う。 イ. HPでの情報発信と、学校紹介ビデオの活用で地域校園の本校の認識を広げる。 ウ. 福祉行政との連携を進める。</p>	<p>(1) ア. 研修参加者アンケートの研修の有効性に関する肯定的回答を80%以上とする。 イ. 関係蔵書の充実と整理を図り、読み合わせなどの活用を行う。NISEの講義配信を5割以上の教員が視聴する。</p> <p>(2) ア. 5月中にパンフレットを作成し配信する。 イ. HPの毎月更新。紹介ビデオを1学期に作成する。 ウ. 区の自立支援協議会に出席し検討内容を校内共有する。</p>	<p>(1) ア. 校外より約350名の参加があり、ほぼ100%肯定的評価を得た。(◎)</p> <p>イ. 購入図書等の内容を共有し活用につながった。 ・ビデオを活用した授業研究会の実施。 ・個人視聴、講義配信視聴会場の設定、発達障害教育情報センター研修講義集活用により過半数の教員の視聴を達成。(○)</p> <p>(2) ア. パンフレットを作成し、大阪市立校配布のほか事業所等で配架。支援相談回数が82回で前年度の59回を上回る。(○)</p> <p>イ. HP開設後、サーバー不調のためHP更新が十分できなかった。学校紹介ビデオを夏期公開講座で活用でき、小中学校への情報提供できた。(△)</p> <p>ウ. ケース会議等にコーディネーターが参加。(○)</p>

東淀川支援学校

<p>3. 交流及び共同学習の充実</p>	<p>(1) 児童生徒の居住地校交流を進める。 ア. 居住地校交流実施(交流校) イ. 居住地校との情報交流実施(交流協力校)</p> <p>(2) 近隣校との交流及び共同学習と地域住民との交流活動を進める。</p>	<p>(1) ア. 居住地交流実施について児童生徒、保護者に周知を図り意向を調査し、傾向を分析する。 イ. 居住地校交流実施の有無にかかわらず、本校と居住地校双方の児童生徒がお互いの学校の情報を知ることができるようにする。</p> <p>(2) ア. 参加する児童生徒自身が学習成果を確認できる「交流ノート」を作成し活用する。 イ. 地域住民が学校支援ボランティアとして児童生徒と共に活動できるよう、平成 28 年度に企画の場を持ち、本年度中に試行実施を目指す。</p>	<p>(1) ア. 保護者アンケートを1学期に実施し、居住地校交流についての意識を把握する。 イ. 居住地校情報の掲示板を1学期中に設置する。交流協力校を前年度3校+5校以上とする。</p> <p>(2) ア. 「交流ノート」を1学期中に作成し、2, 3学期に活用する。 イ. 地域住民代表と企画検討を1学期中に行い、2学期以降試行実施する。</p>	<p>(1) ア. 保護者アンケートにより居住地校交流に対する意識を把握できた。実施希望を妨げる要因への対応につなげていく。(○)</p> <p>イ. 13校の協力校からの便りを校内掲示し、児童並びに保護者で閲覧できた。居住地校を中心に居住地での活動参加につながる。(○)</p> <p>(2) ア. 交流ノートをもとに、共同学習が進むよう担当者間の検討で活用できるようになった。(○)</p> <p>イ. 直接交流の設定はできていない。運動会、文化祭、作品展の参観をしていただいている。(△) 地域行事等で本校の作品展示ができた。学校前で府の「愛さつ osaka」を年3回実施。</p>
---------------------------	--	---	---	--